

## (訪問系) 新型コロナウイルス感染症防止のための事業所等の対応について

※就労定着支援は通所系のQAをご覧ください。

令和2年5月12日時点

| No.              | 内容                              | 対応内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 留意点                                               |
|------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 1. サービス提供の方法について |                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                   |
| 1                | サービスの提供にあたって注意することは。            | サービス提供に先立ち、利用者本人・家族又は職員が本人の体温を計測し（可能な限り事前に計測を依頼することが望ましい）、発熱が認められる場合には、適切な相談及び受診を行うよう促してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                   |
| 2                | 利用者が感染が疑われる場合は。                 | 事業所から、保健所等に設置されている「帰国者・接触者相談センター」（電話番号 078-322-6829（毎日24時間））に電話連絡し、指示を受けること。<br>また、速やかに管理者等への報告を行い、当該事業所内での情報共有を行うとともに、障害者支援課への報告を行う。さらに、当該利用者の主治医及び担当の居宅介護支援事業所等に報告を行う。<br>なお、保健所の指示があった場合は、その指示に従うこと。<br>感染が疑われる者との濃厚接触が疑われる職員のうち発熱等の症状がある場合は、自宅待機を行い、保健所の指示に従う。発熱等の症状がない場合であっても、保健所と相談の上、可能な限りサービス提供を行わないことが望ましい。                                                                                                                                                          | 「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について」（令和2年3月6日厚生労働省事務連絡） |
| 3                | 感染が疑われる利用者へのサービス提供はどうすればよいか？    | 保健所と相談し、生活に必要なサービスを確保する。その際、保健所とよく相談した上で、訪問介護の必要性を再度検討すること。<br>検討の結果、訪問介護の必要性が認められ、サービスを提供することとなる場合には、以下の点に留意すること。<br>・基礎疾患を有する者及び妊婦等は、感染した際に重篤化するおそれが高いため、勤務上の配慮を行うこと。<br>・サービスの提供に当たっては、地域の保健所とよく相談した上で、感染防止策を徹底すること。具体的には、サービス提供前後における手洗いやうがい、マスクの着用、エプロンの着用、必要時の手袋の着用、咳エチケットの徹底を行うと同時に、事業所内でもマスクを着用する等、感染機会を減らすための工夫を行うこと。                                                                                                                                                | 「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について」（令和2年3月6日厚生労働省事務連絡） |
| 4                | 感染が疑われる利用者へのサービス提供時に気をつけることは？   | ・自身の健康管理に留意し、出勤前に各自で体温を計測して、発熱や風邪症状等がある場合は出勤しないこと。<br>・濃厚接触が疑われる者とその他の利用者の介護等に当たっては、可能な限り担当職員を分けての対応や、最後に訪問する等の対応を行う。<br>・訪問時間を可能な限り短くできるよう工夫を行う。ただし、やむを得ず長時間の見守り等を行う場合は、可能な範囲で当該利用者との距離を保つように工夫する。<br>・訪問時には、換気を徹底する。<br>・濃厚接触が疑われる者のケアに当たっては、職員は使い捨て手袋とマスクを着用すること。咳込みなどがあり、飛沫感染のリスクが高い状況では、必要に応じてゴーグル、使い捨てエプロン、ガウン等を着用する。<br>・体温計等の器具については、消毒用エタノールで清拭を行う。<br>・サービス提供開始時と終了時に、液体石けんと流水による手洗いまたは消毒用エタノールによる手指消毒を実施する。手指消毒の前に顔（目・鼻・口）を触らないように注意する。「1ケア1手洗い」、「ケア前後の手洗い」を基本とする。 | 「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について」（令和2年3月6日厚生労働省事務連絡） |
| 5                | 感染が疑われる利用者への食事の介助等で気を付けることは？    | ・食事前に利用者に対し、液体石けんと流水による手洗い等を実施する。<br>・食事は使い捨て容器を使用するか、自動食器洗浄器の使用、または、洗剤での洗浄を行う。<br>・食事の準備等を短時間で実施できるよう工夫を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について」（令和2年3月6日厚生労働省事務連絡） |
| 6                | 感染が疑われる利用者への排泄の介助等で気を付けることは？    | ・おむつ交換の際は、排泄物に直接触れない場合であっても、手袋に加え、使い捨てエプロンを着用する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について」（令和2年3月6日厚生労働省事務連絡） |
| 7                | 感染が疑われる利用者への清潔・入浴の介助等で気を付けることは？ | ・介助が必要な者（訪問入浴介護を利用する者を含む）については、原則清拭で対応する。清拭で使用したタオル等は、手袋とマスクを着用し、一般定な家庭用洗剤で洗濯し、完全に乾燥させる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について」（令和2年3月6日厚生労働省事務連絡） |
| 8                | 感染が疑われる利用者への環境整備で気を付けることは？      | ・部屋の清掃を行う場合は、手袋を着用し、消毒用エタノールで清拭する。または、次亜塩素酸ナトリウム液（※別紙）で清拭後、湿式清掃し、乾燥させる。なお、次亜塩素酸を含む消毒薬の噴霧については、吸引すると有害であり、効果が不確実であることから行わないこと。トイレのドアノブや取手等は、消毒用エタノールで清拭し、消毒を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について」（令和2年3月6日厚生労働省事務連絡） |

| No.         | 内容                                                                      | 対応内容                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 留意点 |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 9           | コロナウイルスの感染を恐れて、利用者がサービスの提供を断ってきた場合は、報酬を請求できないのか。                        | サービスを提供する体制が整っており、あらかじめサービス提供予定のあった利用者が、新型コロナウイルスの感染を恐れてサービスを断ってきた場合は、報酬請求はできない。                                                                                                                                                                                                                  |     |
| 10          | 職員等に感染者が発生した場合はどうなるのか。                                                  | 保健所及び障害者支援課に報告願います。<br>保健所の判断で場合によっては閉所を要請することになる。都道府県等が行う休業要請には法的根拠はないが、感染症のまん延防止を図るという観点から、都道府県等の判断で要請するものである。<br>また、社会福祉施設等は、休業要請に従う義務はないが、同様の観点から必要な場合には休業を行っていただくようお願いしたい。<br>なお感染した職員の行動を調査し、他の職員や利用者も含め、その職員との濃厚接触者とみなされた場合は、その方は保健所の指示に従っていただくことになる。                                      |     |
| 11          | 人員体制が常時整わない場合など、事業所において利用者へサービス提供が行えないと判断した場合は閉所してもよいのか？                | 可能な範囲で体制を整えてサービス提供をお願いしたいが、利用者の安全確保を鑑み、どうしてもサービス提供が難しい場合は事業所の判断において閉所もやむをえない。<br>ただし利用者が困らないように、一時的にサービス提供が可能な他事業所に引き継ぎ。利用者へのサービスの提供を継続すること。                                                                                                                                                      |     |
| 2. 報酬請求について |                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |
| 1           | 職員が休んでいるため、一時的に指定等基準や介護報酬の算定用にかかる人員基準を満たすことが出来なくなる場合は。                  | 臨時的対応として、利用者の処遇に配慮すれば、届出等、必要なく、加算も請求可能である。                                                                                                                                                                                                                                                        |     |
| 2           | 居宅介護。重度訪問介護に従事する介護職員が不足した場合、一時的に生活介護の職員（介護職員初任者研修修了者）を代わりに従事させることができるか。 | 届け出を行う必要があるが、緊急性の高さに鑑み、届出時期を猶予する。出来るだけ早く届け出を行ってほしい。                                                                                                                                                                                                                                               |     |
| 3           | 利用者から新型コロナウイルスの不安からサービスの提供を断ってきた場合、報酬の請求は可能か。                           | 報酬の請求は不可。                                                                                                                                                                                                                                                                                         |     |
| 4           | 新型コロナウイルスの影響で、事業所の判断で、閉所する場合、報酬は請求可能か。                                  | 報酬の請求は不可。                                                                                                                                                                                                                                                                                         |     |
| 5           | 新型コロナウイルスの影響で、保健所の判断で、閉所する場合、報酬は請求可能か。                                  | 報酬の請求については未定である。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |
| 6           | 緊急時、支給決定時間を超えてサービスを提供することは可能か。                                          | 原則は不可。区役所にご相談ください。                                                                                                                                                                                                                                                                                |     |
| 7           | ヘルパーが確保できず同一法人内の別事業所がサービスを提供する場合、契約手続は後日でも可能か？                          | 別事業所であれば、契約手続は必要であるため、事後になってもよいが、契約は取り交わしておくこと。                                                                                                                                                                                                                                                   |     |
| 8           | 感染リスクを下げるため、訪問時間を短くする工夫を行った結果、サービス提供時間が短時間になった場合においても報酬は請求可能か           | 居宅介護、同行援護及び行動援護については、個別支援計画等に定められた内容のうち、障害者等の地域生活を支援するために必要となる最低限のサービス提供を行った場合は、サービス提供が20分未満となった場合であっても「30分未満」の報酬を算定することとして差し支えない。<br>重度訪問介護についても同様の場合においては、1事業者における1日の利用が3時間未満であっても報酬請求は可能であり、また、サービス提供が40分未満となった場合であっても「1時間未満」の報酬を算定することとして差し支えない。<br>なお報酬の請求は当初の計画時間ではなく、短くなったサービス提供時間で請求ください。 |     |

| No. | 内容                                                                                                                               | 対応内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 留意点 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 9   | 通所系サービスの利用が出来なくなった利用者に対するサービス提供の増加や、職員の発熱等により、人員基準上の必要な資格を持った人員が確保出来ない場合は基準違反となるのか。                                              | <p>基本的には、相談支援事業所等が調整のうえ、有資格者を派遣する事のできる訪問系サービス事業所からサービス提供されることが望ましい。</p> <p>やむを得ず指定等基準を満たすことが出来なくなった場合で、それが一時的なものであり、かつ利用者の処遇に配慮したものであれば、当該資格のない者であっても、他の事業所等で障害者等へのサービス提供に従事した事がある者であり、利用者へのサービス提供に支障がないと神戸市が認める者であれば、当該支援に従事することとして差し支えない。ただし資格のない者が従事する期間は出来るだけ短期間となるよう調整されたい。</p> <p>なお「他の事業所等で障害者等へのサービス提供に従事した事がある者」には、ボランティア等で一定の介護経験のある者を含む。</p> <p>資格を有しない者がサービスを提供する場合は、障害者支援課にHPに掲載している様式でFAXで必ず報告し、承認を得ること。詳しくは障害者支援課自立支援係（電話（078）322-5230）までお問合わせください。</p> <p>様式：「（新型コロナウイルスの影響による）訪問系障害福祉サービスの状況報告書」<br/> <a href="https://www.city.kobe.lg.jp/documents/32722/r020512_houmon_youshiki.pdf">https://www.city.kobe.lg.jp/documents/32722/r020512_houmon_youshiki.pdf</a></p> |     |
| 10  | 家事援助について、外出自粛要請等の影響で買い物が混雑により時間を要し、実際の家事援助の時間が大きく超えた場合、実際に要した時間で請求可能か。                                                           | <p>実際に要した時間で請求する旨を利用者に説明し、同意が得られ、かつ相談支援専門員とサービス提供責任者が必要な連携を図った上で区が必要と認めるときには、算定が可能である。なお、この場合、居宅介護計画は事前・事後に関わらず、適宜必要な変更を行うこと。</p> <p>また、重度訪問介護、同行援護及び行動援護において、利用者の買い物に同行して支援を行う場合についても同様である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |     |
| 11  | 居宅介護職員初任者研修等について、感染リスクを下げるため、受講者が一堂に集まる講義に代えて、通信の方法で行うことは可能か。                                                                    | <p>居宅介護職員初任者研修等については、従前より講義（科目内において演習と併せて実施される講義を除く。）を通信の方法によることを妨げていないが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、通信の方法による講義の実施について検討していただきたい。</p> <p>なお、研修における演習及び実習の実施にあたっては、集団感染を防止するために1回の演習等の受講者を少人数にした上で、席の間隔を空けるなど十分な感染防止対策を実施することが重要である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |     |
| 12  | 居宅介護等の特定事業所加算等の算定要件のひとつである「定期的な会議の開催やサービス提供前の文書による指示・サービス提供後の報告」について、感染リスクを下げるため、電話、文書、メール、テレビ会議等の対面を伴わない代替手段をもって開催の扱いとすることは可能か。 | <p>感染拡大防止の観点からやむを得ない理由がある場合について、電話、文書、メール、テレビ会議等を活用するなどにより、柔軟に対応することも可能である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |     |
| 13  | 同行援護等について、ヘルパーが単独で買い物や薬の受け取りの代行等を行うことについて報酬の請求は可能か。                                                                              | <p>買い物や薬の受け取りの代行等は居宅介護の家事援助のサービスで可能であるが、居宅介護の支給決定を受けていない利用者について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の必要性に鑑み、民間の宅配サービスや買い物代行等其他の手段では代替できない場合は、報酬の対象とすることも可能である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |     |

担当：障害者支援課自立支援係  
(078) 322-5230